

日本語教育史研究会 2014 年度研究発表会

2014 年 9 月 20 日

慶應義塾大学（三田）

会長就任記念講演 日本語教育史研究は何を目指すか

日本語教育史研究会会長

天理大学・桃山学院大学非常勤講師

前田 均

hm1464@andrew.ac.jp

「会長就任記念」などと偉そうに言う気はありません。みんなで日本語教育の実践に歴史的研究をどう役立てるか、今後のお互いの研究をどう進めるか、考えていきましょう。

#### 1. 外部からの「雑音」

高崎宗司は「日本語教育史に関する研究の成果も、わずかながら発表されている」が「その多くはもっぱら日本語教育の技術的問題を論じていて、アジアの人々に対する日本語の強要、彼らの母国語の抑圧という歴史を省みようとする論文は、全体の一パーセントにも満たない。」『『大東亜共栄圏』における日本語』『岩波講座日本通史 第 19 巻』岩波書店、1995 年。

そりゃ、「技術的問題」が大事だろう。

学習者の人権に配慮しつつ効率的に。関正昭氏「禁領域」。庵功雄氏の研究。

日本語教育学会で日本語教育史について発表しようとする「周辺的研究」と言われた人がいるそうだ。大会委員会？

小学校教師が「生活綴り方」の研究ばかりするはずはないだろう。

実は高崎宗司なる人物は……。

2008 年「第 60 回全国人権・同和教育研究大会」（奈良県）では「歴史を省みようとする」ものは皆無。

国分一太郎、住井すゑの問題点。拙稿あり。

「越境（入学）」 ⇔ 「越境する子どもたち」変わったものだなあ。

丸刈り・制服の強制 ⇔ 今は制服を好む高校生

日本語教育界には、日本語教育の歴史の「陰」を追い続けている日本語教師が存在する。

「日本語の強要、彼らの母国語の抑圧」と言うけれど、盗作問題は「アジアの人々」を持ち上げたから？

石剛『日本の植民地言語政策研究』2005年、明石書店。

『植民地支配と日本語』1993年、三元社。

許雅 [女+尼]「日治時代初期（1895-1930）における台湾原住民教育：「蕃童教育所」の役割」『台湾原住民研究』第10号、2006年。

田中克彦の問題点。

## 2. 「歴史認識」問題

日本語教育学会2002年度春季大会シンポジウム「日本語教育史のこれから」

司会：平高史也。新内康子、河路由佳、由井紀久子、安田敏朗「日本語教育史と言語政策史のあいだ」。

安田「発表要旨」

実際の学会の場では歴史認識の相違に愕然とした。（中略）いやしくも「歴史」を名乗り、かつ「これから」を論じようとするのであれば最低限の基礎的な共通認識の確立の作業が必要なことはもちろん、それを客観性の美名にかくれた修正主義の温床にしないだけのところがまえが必要である。しかし正直なところこのままでは「これから」は期待できないと、部外者の私は痛感した次第である。

まともな研究もできないくせに。「情報局ニッポンゴ300語」はどうした？

『帝国日本の言語編制』1997年、世織書房。

「歴史認識の共有」を言うのなら、家族（の歴史）にもそれを求めるのか？

「歴史認識の共有」が行われている状態ってどういうの？

新事実が出てきたらどうするの？

『昭和天皇実録』

「慰安婦報道」

日中韓3国共通歴史教材委員会『未来をひらく歴史』2005年、高文研。

内容も共通でないし、「文化大革命」「北朝鮮への帰国運動」も扱われていないけど、いいの？

小谷野敦『ムコシュウト問題——現代の結婚論』2014年、弘文堂。

「それでも、娘が生涯独身でいていいのか、というと、どうも父親としては、自分が生きている間娘がそばにいてくれればそれでいいらしいのである。母親の場合、もっとそれが激しくて、娘の縁談をつぶすために裏からこまごまと手を回す人がいる。(16ページ)」

夫婦別姓問題。

「女は嫁入りするものだ」という誤った(!)通念のあった時代の方がまし？

ジェイン・エア、キャンディ・キャンディはなぜうける(小谷野)。

法律上の父か、DNA上の父かの判決。

「農村花嫁」「国際結婚」と日本語教育。

「部落民宣言」の問題点。「赤ちゃん取り違え」だったらどうするのだろう。

### 3. 日本語教育は変質したのか

拙稿「日本語教師が加害者になるとき」『天理大学人権問題研究室紀要』12号、2009年。

日本語教師はかつては植民地支配・戦争に加担、今は「多文化共生」「移民社会」に加担。  
(ちょっと強引な比較・議論かなあ)

「多文化共生」している状態ってどういうの？

方言研究の経験から。

女子高校・女子大学は「多文化共生」？  
実は奈良女子大学には困ってまして……。

内田樹

『多文化共生』と言いますがけれど（中略）そういうところだって、要するに均質性の高いエスニック・グループが混在しているだけで、グループ内部の均質性は場合によっては日本社会より強かったりするんじゃないかと思うんです。アメリカ全体としてはたしかに多様な価値が併存しているけれど、個人レベルで見ると、自分が属している人種集団内部では『うちのグループのメンバーだったら、こういうふうを考えろ、こういうふうにするまえ』という規制は恐ろしく強いんじゃないですか。』『下流志向』2007年、講談社、224頁。

「やさしい日本語」だって？

日本語を勉強しない日本語教師志望者の存在。  
コミュニケーション重視の英語教育が加担。  
直接法の会話から入る日本語教育の問題点。

大石初太郎「日本語教師の人格」国語文化学会編『外地・大陸・南方日本語教育実践』1943年、国語文化研究所。1986年、冬至書房、復刻版。

「第一に、何よりも正しい日本語を使ふべきこと」

「第二に（中略）日本語の性質構造についての知識をもつことが必要」

「第三に（中略）生徒の心理の状態、その発達の様相、特に日本語習得の心理的過程に対する洞察を有すべき」

↓

「日本語教師は愛の人でなければならない」

「東亜共栄圏建設の文化的第一線戦士として選ばれた立場にある光栄」

「真の日本語教師は興亜の理想を体した国士的信念を持つ人物でなければならない」

日本語教育能力試験改訂

佐々木瑞枝『生きた日本語を教えるくふう』2003年、小学館、216～217ページ。

「これからは、『日本語の知識』はあるが『国際理解』という意味ではゼロだなどと批判される日本語教師は少なくなるだろうと期待している。」

「悪い日本語」にどう対処するか？

国分一太郎「おりろ！」

『ビルマの豎琴』、山本七平も言及。

ブラジル人生徒の実体験（NHK）

それにしても『はだしのゲン』の「きちがい」「こじき」指摘は鋭かったなあ。

日本語に無知な論文審査。田中克彦、飛田良文

石剛『植民地支配と日本語』45ページ、『日本の植民地言語政策研究』61ページ

台湾における国語問題は、本島統治に殊に皇民化の根蒂にして教育教化の生命なり。されば領台以来当局並に教育強化の任にある者は、誠心を傾倒して国語の普及徹底に不断の努力を続け、……今や我が国語は国運の伸張に適従し、興亜の大使命を帯びて大陸に進出するの雄雄しき態勢にあり。外地台湾における国語教育多年の経験は大いに国策遂行に貢献とする会心の秋に際会せり。(山崎睦雄『二言語併用地における国語問題の解決』序文、一九三九)

豊田国夫『民族と言語の問題』149ページ

(略) 外地台湾における国語教育多年の経験は大いに国策遂行に貢献とする会心の秋に際会せり。

石は「秋」をトキと読んでいないのではないかと私は心配している(笑)。

田中祐輔氏の研究の意義。

#### 4. 「異領域との対話」?

田中望『日本語教育のかなたに——異領域との対話』2000年、アルク。

実は「日本語教育史」は研究されてきていた。

日本教育史>植民地教育史、在日朝鮮人教育

佐藤秀夫、小沢有作

国語学

外国資料、キリシタン資料、ロシア漂流民、ヘボンの辞典

金田一春彦

国語教育(史)

芦田恵之助、梅津隼人(我田引水<笑>)、木村万寿夫(台湾→鳥取大学)

留学生教育(史)

実藤恵秀

日中（例）交流史

実藤恵秀

文学（史）

ドナルド・キーン、サイデンステッカー、井伏鱒二

日系人研究

それなら「日本語教師による日本語教育史」の独自性は？

日本語教育学会大会委員会での経験から。菊地康人氏。

∞討論課題：

多文化共生

移民社会

歴史認識の共有

日本語教師の資質

「やさしい日本語」